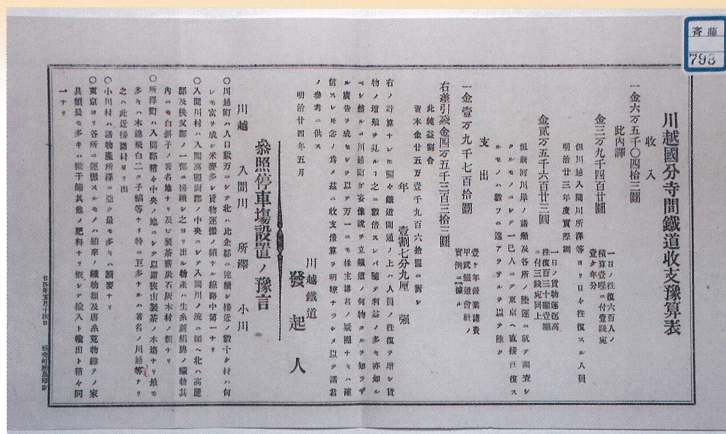




川越鉄道発起人総会議録

明治24年(1891)4月 齊藤武司氏蔵


求友館に設置された川越鉄道仮事務所で開催された発起人総会の会議録です。参加した発起人の人名や、創立委員5人の選出、定款の決定などの議事の結果が記録されています。



川越国分寺間鉄道収支予算表

明治24年(1891)5月 齊藤武司氏蔵

川越鉄道の収支の見通しを示し、多額の利益が出ることを述べ、川越の人々から出ていた批判の声に反論しています。また、川越、入間川、所沢、小川(現東京都小平市)に停車場を設置することが予告されています。



かつての川越鉄道株式会社の路線は、西武鉄道株式会社の国分寺線、新宿線となっています。西武鉄道は大正4年(1915)池袋・飯能間を開業した武蔵野鉄道を源流として、現在県内に新宿線のほか、池袋線、西武秩父線など5路線があります。平成31年(2019)3月には、西武鉄道の25年ぶりの新型特急で「いままでに見たことのない新しい車両」をコンセプトにつくられたLaview(ラビュー)の運行が、池袋線・西武秩父線で始まりました。

001系 Laview(ラビュー)
(西武鉄道株式会社提供)



4 できなかった線路

鉄道建設ブームのなかで埼玉県内でも各地で様々な路線が計画されました。しかし、計画が認められなかったり、会社設立までこぎつけても資金調達がうまくいかなかったりといった理由で、日の目をみることもなかった路線もありました。明治28年(1895)に出願された北埼玉鉄道は日本鉄道第一区線熊谷から行田、加須を経て第二区線栗橋を結ぶ計画でしたが却下されました。明治29年(1896)6月に仮免許状を下付され、翌年11月に創立総会を開いた武州鉄道は、八王子から高崎までの路線を計画しましたが、明治33年(1900)12月に解散、本免許の申請に至りませんでした。また、明治44年(1911)に軽便鉄道(規格が簡便な鉄道)による旅客・貨物営業の許可を得た幸手鉄道は、久喜・幸手・江戸川べりの豊岡(現幸手市)の路線を計画しましたが、建設されることはありませんでした。

損益勘定		貸借対照表	
収入	10,000.00	資本金	10,000.00
支出	8,000.00	借入金	2,000.00
利益	2,000.00	利益剰余金	2,000.00
繰越利益	2,000.00	負債	2,000.00
合計	12,000.00	資産	12,000.00



武州鉄道株式会社之記録 明治29年(1896)以降 郵政博物館蔵
入間郡加治村(現飯能市)在住の出資者がまとめた記録です。上の写真は、明治33年(1900)年に解散を決めた臨時株主総会の会議録です。

幸手鉄道株式会社創立趣意書(平面図) 明治44年(1911) 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵
幸手鉄道が計画した路線を示した平面図です。

鉄道は線路が走る沿線の地域社会に大きな変化をもたらしました。ここでは「鉄道のまち」ともいわれる大宮と大宮工場、そして東北新幹線の建設と沿線地域や埼玉県との関係に注目します。

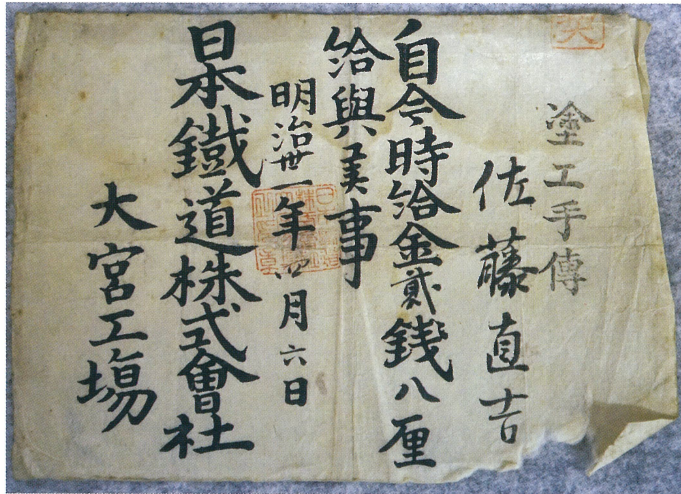
日本鉄道会社の第一区線（現在のJR高崎線）と第二区線（現在のJR東北本線）の分岐点となった大宮には、機関車や客車など車両の修繕や新造を行う大宮工場が設置されました。大宮駅や大宮工場の設置は大宮のまちの発展に大きな影響を与えました。

昭和39年（1964）年に東海道新幹線が開業してから7年後の昭和46年（1971）年には、東北・上越新幹線の建設工事が始まりました。埼玉県内の沿線自治体では、家屋の立ち退きや振動・騒音などの公害が懸念され反対運動が起きました。東北・上越新幹線の開業は、当初の予定から大幅に遅れ、昭和57年（1982）年6月に大宮駅を始発として暫定開業しました。

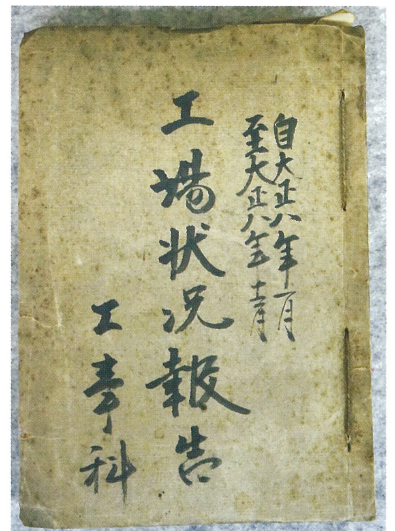
新幹線の線路が通る大宮、与野、浦和、戸田市には通勤新線（埼京線）が併設され、東北・上越新幹線の分岐点となるため町が分断される伊奈町と大宮の間には新交通システム（ニューシャトル）が開業しました。

1 「鉄道のまち」、大宮と大宮工場

日本鉄道会社の高崎・前橋へ向かう第一区線と青森へ向かう第二区線の分岐点は、明治17年（1884）12月に大宮に決まり、翌年3月16日には大宮停車場が開業しました。明治27年（1894）12月には停車場北側に車両などの修繕や新造を行う大宮工場が開業しました。大宮工場で働く労働者は当初239人でしたが、数年後には1,000人を超えました。大宮駅前では運送店、飲食店や様々な商店が営業し、また上州や東北から集まる繭を原料として、横浜港から製品を輸出する製糸工場も進出しました。昭和7年（1932）9月には、東京近郊の都市化の進展を背景として、赤羽・大宮間に電車が走り、沿線の住宅地化がいっそう進みました。



辞令 明治31年（1898）4月
東日本旅客鉄道株式会社大宮総合車両センター蔵
車両の塗装などに従事したと考えられる、塗工手
伝の賃金を決定した辞令です。



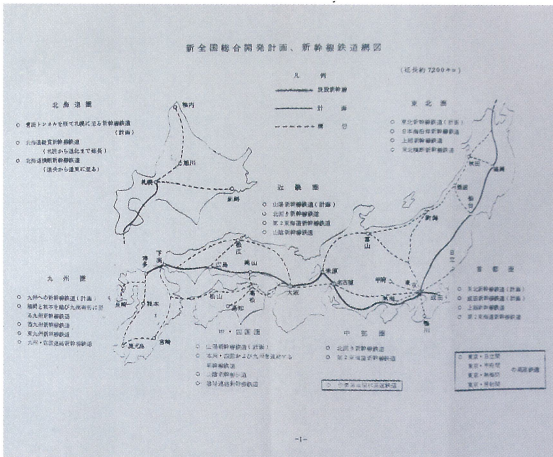
工場状況報告 大正8年（1919）
東日本旅客鉄道株式会社大宮総合車両センター蔵
大宮工場が東部鉄道管理局あて報告した毎月
の稼働状況に関する書類。組立、製罐、旋盤、鍛
冶など各職場の様子が分かります。この頃は
電気機関車の新造のため繁忙を極めていたよ
うです。



工場通信 工友俱樂部備付図書目録
工場報附録 No.39 昭和8年（1933）12月
東日本旅客鉄道株式会社大宮総合車両センター蔵
大宮工場の「工友俱樂部」に備え付けられた
図書の目録です。小説、落語や講談など娯楽
的なものを中心に、600冊弱の図書が掲載さ
れています。

2 東北新幹線の計画

高度経済成長に伴う東京・大阪間の輸送需要の増加に応えるため、日本国有鉄道(国鉄)は昭和39年(1964)10月1日に東海道新幹線を開業しました。世界最速の時速200キロメートル超で東京・新大阪間を約3時間半(開業時約4時間)で結ぶものでした。昭和44年(1969)に政府が閣議決定した「新全国総合開発計画」(新全総)では、経済成長に伴う国土の過密・過疎を解決するため、新幹線、高速道路、データ通信などによる新たなネットワーク形成が構想されました。昭和45年(1970)5月には国土の総合的、普遍的発展に資することを目的に「全国新幹線鉄道整備法」が公布され、同法に基づき、翌年10月に東北・上越新幹線工事実施計画が認可され、11月28日に国鉄大宮工場で起工式が行われました。



新全国総合開発計画の新幹線鉄道網図

「上越新幹線推進協議会」のうち 昭和44年(1969)12月
埼玉県行政文書 A4882

上越新幹線建設促進同盟会設立総会で配布された資料に掲載された、「新全国総合開発計画」に盛り込まれた新幹線鉄道網図です。

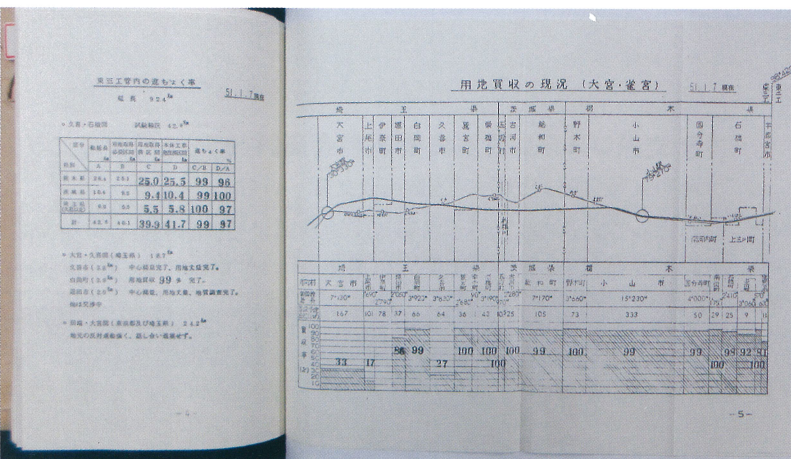
東北新幹線起工式当日の反対デモ

昭和46年(1971)11月
埼玉新聞社撮影戦後報道写真 S461128-035

大宮工場で東北新幹線の起工式が行われた日、工場の周囲では、地域住民によって新幹線建設に反対するデモが行われました。

3 東北新幹線の建設と開通

東北新幹線の建設工事にあたっては、線路による町の分断、騒音や電波障害などの公害が懸念され、沿線人口の多い県南部では反対運動が起こりました。とくに新幹線の分岐点となり町が三分割される伊奈や、当初地下を通す予定が高架に変更となった大宮、与野、浦和、戸田では用地の取得が進みませんでした。こうした状況のなかで昭和52年(1977)9月に国鉄は県に対して、高架化とともに通勤新線建設や環境基準を守ることを伝えました。これに対して県は、受け入れの姿勢を示すとともに地元要望による通勤新線の建設、環境基準の達成、大宮駅への全列車停車、新交通システムの建設という四条件を表明しました。そうして反対運動は収束していき、建設工事は難航したもの、昭和57年(1982)6月23日に大宮駅からの暫定開業が行われました。



第13回建設関係連絡会議概要「新幹線建設関係県連絡会議」のうち 昭和51年(1976)2月 埼玉県行政文書 A6724

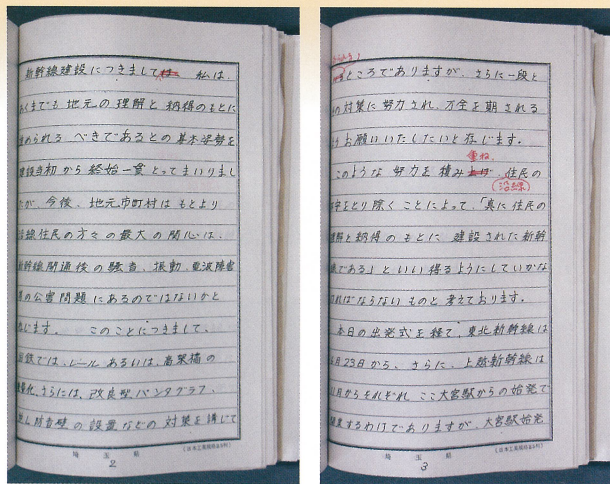
東北新幹線の沿線にあたる県の関係者による会議のために、建設工事を担当する日本国有鉄道東京第三工務局が作成した資料です。用地買収の状況をまとめた表をみると、茨城県や栃木県ではほぼ100パーセントの用地を買収していましたが、埼玉県内では買収が進んでいない地域も多い状況でした。



「新幹線問題で四条件」

『埼玉新聞』昭和55年(1980)7月3日付

県は県議会などで早くから新幹線建設についての条件を表明していましたが、このときはじめて国鉄総裁に直接「四条件」を申し入れました。



東北新幹線試験車大宮駅出発式の知事祝辞原稿

「東北新幹線開業(新交通システム)」のうち

昭和57年(1982)2月 埼玉県行政文書 A12741

東北新幹線の開業に向けた試験車の出発式での畑和知事の祝辞です。公害対策に取り組み、住民の理解と納得のもとに建設される必要があると述べました。



『『やまびこ』北へ一直線』

『埼玉新聞』昭和57年(1982)6月24日付
東北新幹線開業日の『埼玉新聞』の紙面です。

4 通勤新線と新交通システム

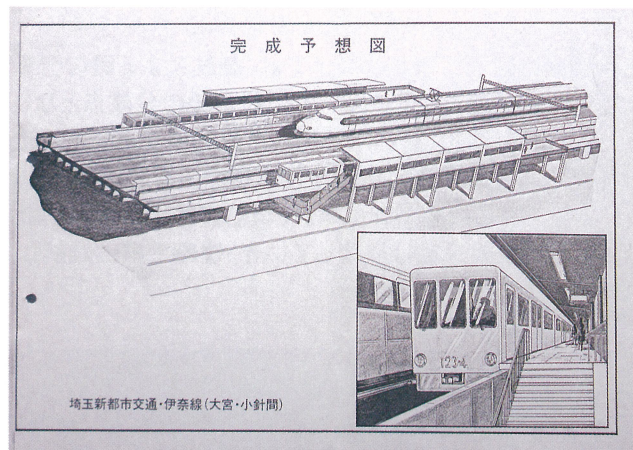
新幹線の建設とともに、赤羽・大宮間に通勤新線が、また大宮から伊奈方面に向かう新交通システムが建設されました。通勤新線は昭和60年(1985)9月30日に開業しました。大宮、武蔵浦和、赤羽を経て池袋まで乗り入れ、埼京線と呼ばれました。東北・上越新幹線の分岐点となり町が三分割されることとなった伊奈町では、新幹線の建設に対して町ぐるみの反対運動が起こりました。昭和52年(1977)に町議会は新幹線の代償として新交通システム導入を求めることを決議、県と国鉄・運輸省との交渉の末、新交通システムの建設が決定、昭和55年(1980)に第三セクターによる埼玉新都市交通株式会社が設立され、昭和58年(1983)12月にニューシャトルが暫定開業しました。



埼京線開業記念入場券

昭和60年(1985)9月 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵


埼京線の開業に合わせて発売された記念入場券です。埼京線は新幹線の高架に併設され、大宮・赤羽間に10の新駅ができました。



新交通システム収支概要説明会資料「新交通システム」のうち

昭和56年(1981)3月 埼玉県行政文書 69470


自治省で開催された埼玉新都市交通株式会社の説明会の資料です。新交通システムの完成予想図が掲載されています。



NEW SHUTTLE
埼玉新都市交通株式会社
Saitama New Urban Transit Co., Ltd.

埼玉新都市交通、伊奈線「愛称:ニューシャトル」は、平成2年(1990)に、大宮・内宿間を全線開業しました。東北・上越新幹線の高架の張り出し部分に設けられた走行路を、ゴムタイヤ式の小型軽量の車両が走行する形式です。平成26年(2014)には次世代車両2020系の導入検討にあたって、新たなコーポレートマークが誕生し、翌年からは六角形を基調とした斬新なデザインの2020系車両が導入されています。

2020系(埼玉新都市交通株式会社提供)



明治時代以来埼玉県内に張りめぐらされた鉄道網は、それぞれの時代のなかで県民の生活と密接な関係にありました。埼玉新聞社が戦後期から高度経済成長期にかけて撮影した写真のなかにも、そうした様子が垣間みられます。



シベリアから帰還した人々(上野駅)

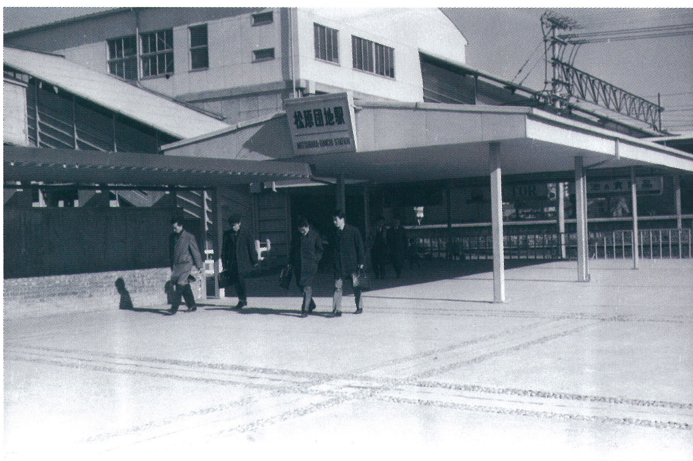
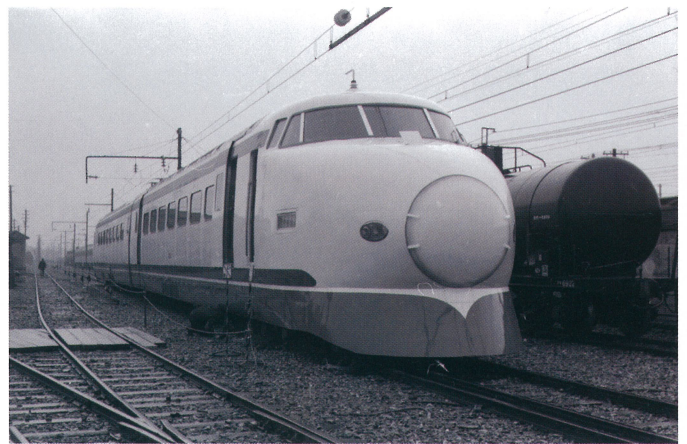
昭和23年(1948)5月 埼玉新聞社撮影戦後報道写真 S230015-05

ソビエト連邦による抑留から帰還した将兵を乗せた列車が東京の上野駅に到着したときの様子です。このときの約600人の復員者のうち、48人が埼玉県出身者でした。

新幹線試作車両

昭和37年(1962)4月 埼玉新聞社撮影戦後報道写真 S370426-003

昭和39年(1964)に開業予定の東海道新幹線の試作車両が、日本車輛製造株式会社蕨工場(現在の川口市芝園団地の場所)で完成し、お披露目されたときの様子。これまでにない外観は、「翼のない航空機」と評されました。



東武鉄道松原団地駅

昭和38年(1963)12月 埼玉新聞社撮影戦後報道写真 S381219-006

昭和36年(1961)、計画戸数6,000戸という、当時全国一の規模を誇った日本住宅公団の草加松原団地の建設工事が開始され、翌年入居が始まりました。これに合わせて、団地のための新駅として、昭和37年(1962)12月に東武鉄道松原団地駅が営業を開始しました。

主要参考文献

井上啓蔵編『秩父鉄道五十年史』秩父鉄道株式会社、1950年／老川慶喜『埼玉鉄道物語』日本経済評論社、2011年／老川慶喜『日本鉄道史 幕末・明治篇』中公新書、2014年／老川慶喜『日本鉄道史 昭和戦後・平成篇』中公新書、2019年／埼玉県編『新編埼玉県史 通史編5 近代1』埼玉県、1988年／埼玉県編『新編埼玉県史 図録』埼玉県、1993年／埼玉県立博物館編『さいたまの鉄道』埼玉県立博物館、1999年／埼玉新都市交通株式会社編『快走への軌跡』埼玉新都市交通株式会社、1993年／埼玉新都市交通株式会社編『地域と翔ける』埼玉新都市交通株式会社、2018年／杉山正司『『各線鉄道線路図』～東京・高崎間を中心として～』『郵政博物館研究紀要』創刊号、郵政博物館、2010年／杉山正司「明治鉄道草創期関係資料」『紀要』13、埼玉県立歴史と民俗の博物館、2019年／鉄道博物館学芸部編『東北・上越新幹線開業30周年記念展』鉄道博物館、2012年／鉄道博物館学芸部編『OH! MIYA HISTORY』鉄道博物館、2015年／鉄道博物館学芸部編『NIPPON鉄道の夜明け』鉄道博物館、2018年／東武鉄道社史編纂室編『東武鉄道百年史』東武鉄道株式会社、1998年／所沢市史編さん委員会編『所沢市史下』所沢市、1992年／日本国有鉄道編『日本国有鉄道百年史』第1巻、日本国有鉄道、1969年／日本国有鉄道編『日本国有鉄道百年史』第2巻、日本国有鉄道、1970年／日本国有鉄道大宮駅編『大宮駅100年史』日本国有鉄道大宮駅、1985年／日本国有鉄道大宮工場編『七十年史』日本国有鉄道大宮工場、1965年／日本鉄道省編『日本鉄道史 上篇』清文堂出版、1972年／星野誉夫「日本鉄道会社と第十五国立銀行(一)」『武蔵大学論集』17(2-6)(通巻68-72)、武蔵大学経済学会、1970年／東日本旅客鉄道株式会社大宮工場百年史編集委員会編『大宮工場百年史』東日本旅客鉄道株式会社大宮工場百年史編集委員会、1995年／松平昌昌編『図説 日本鉄道会社の歴史』河出書房新社、2010年

埼玉県立文書館開館50周年&リニューアル記念企画展
国指定重要文化財 埼玉県行政文書公開

「鉄道の埼玉 一明治から現代へ」展示解説図録

編集・発行 埼玉県立文書館 さいたま市浦和区高砂4-3-18
発行日 令和2年(2020)1月14日
印刷・製本 朝日印刷株式会社